

ひゅーまんねつとわーく

# 地域に生きる

2006年7月 発行 / 第26号

社会福祉法人北摂杉の子会 萩の杜 ジョブサイトひむろ ジョブサイトよど 社会福祉法人北摂杉の子会後援会  
萩の杜家族会 ジョブサイトひむろ家族会 ジョブサイトよど家族会  
〒569-1054 大阪府高槻市大字萩谷14番地1 TEL 072-699-0099 FAX 072-699-0130 [haginomori@nifty.com](mailto:haginomori@nifty.com)



自活訓練中の伊藤貴之さん（宮田町のマンションで）

# 高槻市障害者地域移行支援センター 「だ・かーぼ」 開設



～地域での豊かな生活を目指して～

高槻市障害者地域移行支援センター だ・かーぼ

担当支援員 <sup>かつ</sup> 勝 <sup>べ</sup> 部 <sup>しんいちろう</sup> 真一郎

今年度、高槻市より事業委託を受けまして、高槻市氷室町に高槻市障害者地域移行支援センター「だ・かーぼ」の事務所を開設いたしました。

この高槻市障害者地域移行支援センター事業は、居住地から離れた入所施設利用者の方がグループホーム等を利用して、生まれ育った地域での生活に移行していただくこと、そして障害のある方々が安心して地域の中で暮らすことができるように支援することを目的としており、現在大阪府下において32センターが担当圏域で事業展開を行っています。本事業の性格上、当センターの対象者は高槻市が援護元の方のみに限定されますが、私ども法人が開設以来掲げている「地域に生きる」という理念を正に実現する事業だと思えます。

「だ・かーぼ」という名称の由来ですが、本事業の目的から、音楽用語で曲の最初に戻るということを表す記号“D. C. (ダ・カーポ)”

に、入所施設からの地域移行(=施設から生まれ育った地域での生活に戻る)という意味をこめてネーミングいたしました。

今年度より施行されました「障害者自立支援法」の下、新たな障害程度区分や事業体系の再編があり、また、利用者の経済的負担等、利用者、家族がさまざまな不安を抱える中、私たちも日々悩みながら実践を積み重ねております。そんな時だからこそ、私たちはあらためて障害者福祉の原点である障害をもった方々の地域での当たり前の暮らし、そして豊かな暮らしとは何かを考えて、その実現のために何ができるかを考えていかなければならないと感じております。

現状では残念ながら、既存のサービスだけでは、誰もが地域の中で安心して豊かな生活を送ることは難しいと言わざるを得ません。しかし、だからといって地域での生活をあきらめて何もしないのでは地域社会は変わりません。実際の地域生活の中から生まれる利用者のニーズが、新たなサービスの創出につながり、誰もが豊かな生活を送ることのできる地域社会に少しずつでも変化していくと思えます。この実践の積み重ねが私たち社会福祉事業に従事する者の大きな社会的使命だと考えています。

私は昨年度法人内で、自活訓練事業において、担当利用者が入所施設(萩の杜)から市街地のグループホームを利用しての地域生活への移行を



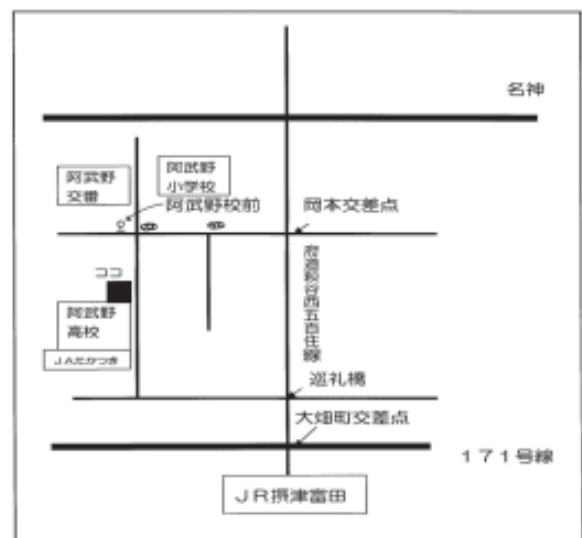


なさま、そして地域のみなさまからのご指導、ご協力の程をお願いいたしまして、開設のご挨拶と代えさせていただきます。

目指した支援に携わらせていただく機会を得ました。その中で、実際の地域生活において入所施設での支援では考えもつかなかったさまざまな課題に直面し、たくさんの方々のご協力を得ながら支援に取り組んでまいりました。そして、利用者が実際の地域生活の中で変化していく姿、そしてそれを支える地域社会が変化していく姿を目の当たりにいたしました。現在、その利用者は萩の杜から地域移行した初めてのケースとして、グループホームでの生活をいきいきと送っておられます。この自活訓練事業を通しての経験は、誰もが当たり前地域の中で生活することの大切さを、私自身が利用者から実地に学ばせていただく機会となりました。入所施設内においての利用者の生活支援や机上の学問だけでは得ることのできなかつた、計りしれない大きな財産となったと思います。

本事業の委託期間は最長3年間ですが、こうした、地域の中でのひとつひとつの小さな積み重ねを大切にしながら、日々努力して地域のみなさまに私どもの掲げる社会的使命を認知していただき、ご理解、ご協力を得ながら、本事業終了後も利用者の方々が地域の中で豊かに生活を送ることを支えるシステムをつくってまいりたいと思います。

最後になりましたが、ご家族のみなさまをはじめ、行政関係のみなさま、関係諸機関のみ



#### <事務所所在地>

名 称：高槻市障害者地域移行支援センター  
だ・かーぼ  
住 所：〒569-1141  
大阪府高槻市氷室町3-20-10  
T E L：072-690-5221  
F A X：072-690-5227



# 障害者自立支援調査研究プロジェクト採択(内示) のご報告

私ども法人は、平成18年度厚生労働省の障害者保健福祉推進事業(障害者自立支援調査研究プロジェクト)に応募し、このたび採択の内示を受けました。プロジェクトの概要について、ご報告いたします。

- 1) 事業名 実業を通じた自立型福祉施設の就労支援強化に関する研究
- 2) 内示額 14,000,000円
- 3) 概要

当プロジェクトは、おもに下記3組織が連携して実施する。

1. 当法人(ジョブサイトよど)および大阪府発達障害者支援センター(大阪府の受託事業で、当法人が運営)
2. ippo(イッポ)プロジェクト  
障害者の雇用促進をからめた実業(ビジネス)を実施する組織。代表は福井由美子氏。
3. 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社  
銀行系シンクタンク大手。事業戦略ほか、幅広く企業支援を実施。担当コンサルタントは関原深氏。

ippoプロジェクトの手がける「贅沢野菜バランスランチ」(有機野菜をふんだんに使った女性向けのやや贅沢な弁当)における作業を、ジョブサイトよどで部分受託していく。その過程で利用者および施設本体が調理スキルを獲得し、利用者本人の能力を発揮できる事業形態を模索し、試行・実施していく。

#### 4) 本プロジェクトの試み

現状の授産施設における労働は、傾向として「利用者のできること」発想からの受注作業が多くをしめているが、工賃も概して低く、個々人の特性を活かした就労支援がなされていない。本プロジェクトでは、企業や組織のコンサルティングで大きな実績をあげてきたシンクタンクが加わることにより、「営業企画」「工程管理」「モチベーション管理」などの民間企業のノウハウを障害福祉施設に取り入れることが可能となる。福祉現場のプロ(当法人)、実業のプロ(ippo)、ビジネス・コンサルティングのプロ(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)が知恵を出し合うことにより、障害者就労と実業の間の新たなビジネスフローを模索する。切り口によっては高い専門性をもつことも可能とされる高機能自

閉症やアスペルガー症候群の人達にも、彼らの潜在能力に応じた仕事の道筋を見つける、というのも目論みの一つである。当プロジェクトで得られた知見は、他地域、他施設、他業態等でも適用・応用・展開できるものとして、広く公開してゆくものとする。

今回採択された障害者自立支援調査研究プロジェクトは、「障害者に対する保健福祉サービスの効果的な提供や質の充実、発達障害等の新たな課題への対応」等に積極的な取り組みについて、地方自治体や公益法人等に対し総予算5億円(18年度)で募集があったものです。先駆的、革新的な取り組みと厚生労働省が認めた提案に対し、補助し、取り組みを支援していくこと、またその成果を評価、公表し、優れた取り組みや情報の普及を図ることを目的とする、とされています。

プロジェクトはこれから具体的に始動してまいります。次号以降にプロジェクトの進行状況を報告してまいります。

## 連携事業担当者

### 福井 由美子氏

ippoプロジェクト代表。

一般企業、国立大学産学連携組織勤務を経て現職。ETIC主催STYLE2004(ソーシャルベンチャービジネスプランコンペ)入賞。受賞テーマは「ippoプロジェクト」……今回の連携プロジェクトのもの



ととなっている。

### 関原 深氏

三菱UFJリサーチ&コンサルティングシニアコンサルタント。

全社事業戦略、マーケティング戦略、新規事業立ち上げ、ベンチャー・産学官連携・社会起業家支援、ネット/ケータイビジネス立ち上げなど、幅広くク



ライアントの事業創造を実践・支援している。日本マーケティング協会「マーケティングマスターコース」指導マイスター、社会起業家支援組織「edge」実行委員等。

## 座談会（3回連載）

# 自閉症——ライフサイクルからみた支援と課題を考える

## 第1回 幼児期

自閉症児者の暮らしやすさ、暮らしにくさは育ってきた時代や環境に左右されてきました。ライフサイクルのどの過程でどんな困難があるのか、どんな工夫があれば、なおよかつたのでしょうか。成長の過程を「幼児期」「学齢期」「青年・成人期」の3期にわけ、実際に自閉症のお子さんを育ててこられた方にお集まりいただき、お話を伺います。

第1回目の今回は、幼児期についてお話しいたきました。

### 座談会参加者

#### 木下直子さん

37歳と35歳の二人の自閉症のご兄弟を育ててこられました。上のお子さんは現在ジョブサイトひむろに通われ、下のお子さんは萩の杜に入所されています。

#### 中村悦子さん

息子さんは現在34歳になられ、萩の杜に入所されています。当法人立ち上げに尽力されました。

#### 福田啓子さん

19歳の息子さんはこの春よりジョブサイトよどへ通われています。福田さんは大阪自閉症支援センターを発展させる会・オアシスで精力的に活動され、最近まで会長をつとめておられました。

#### 聞き手：松上

（当法人常務理事、萩の杜施設長）

（松上） 今日はお集まりいただきありがとうございます。  
自閉症のお子さんを実際に育ててこられた方々に実際の子育ての担い手という視点でのお話を伺いできたらと思います。  
お子さんが生まれてから徐々にお子さんの異変に気づき、どこかの段階で「自閉症」との告知を受けられたと思います。告知のあり方については、「告知だけあってその後の対応がない」だとか、「周囲の理解不足」だとか、いろいろ問題が多いとされています。丁寧な告知でない不安だけが先に来てよくないと思いますが、実際にみなさんの場合、告知はどこでどんな形で受けられたのか、その後のフォローはどんな感じだったのか、まずはお聞かせいただけますか。

（木下） 私自身、子供が生まれたときに、自閉症ということばは知りませんでした。兄弟二人とも自閉症ですが、まず上の子は風邪のため3歳児健診を受けませんでした。ですので、告知は4歳になってからです。幼稚園の受験日に泣いてばかりで不合格となったのですが、その園に声をかけてもらい遊びに通ううちに、「普通ならどつと言葉が出てもいいはずですよ」と先生に指摘されたのです。それまで言葉が少なかったのですが、同居の祖父母

も、男の子だからと言っていましたし、下の弟が生まれて赤ちゃん返りがひどく、気になりながらも、こんなものかと思い育てていました。そして園の先生にU幼稚園のことを教えていただきました。

（松上） U幼稚園に行くということは、「障害がある」ということになりますね。

（木下） 言葉が遅れるとの認識はありましたが、それより信頼する園長先生に教えられたので行ったという感じでした。U幼稚園で「自閉症の気があります」と伝えられたのが、兄の場合は告知になるのでしょうか。

弟は兄よりも自閉がきつくと、1歳半になっても言葉がでていませんでした。U幼稚園に来ておられた、S施設（病院に併設の自閉症児施設）の先生に診てもらうことになり、1週間生活



木下直子さん

の記録をつけたあと判定されたのですが、そのときも「自閉的な傾向があります」のようなあいまいな言い方でした。

兄はその後、前出の幼稚園に通えることになり、そこで同年代の子供たちにわっと囲まれて、子供たちの結びつきの中で幼稚園時代をすごしました。弟は自閉が兄より重度といわれ、デイ教室は待ってもいっぱい、入院ならいますぐ入れるということで、S施設で入院治療をすることになりました。それで治るのなら、という思いで入院させましたが、夏から半年入院し、あるきっかけから強く希望して、次の年の春から一年、入院のままの通院で治療を続けましたが、あまり変化があったようにも思いません。入院について相談した兄の幼稚園で「すぐ入れてもらえるんですか？」ときかれ、行き場のない幼い障害の子の実態にショックだったことが記憶に鮮明です。

(松上) 中村さんの場合はどうでしたか。

(中村) 息子が生まれたのは横浜です。当時は私も仕事をしていて、面倒はおばあちゃんにみてもらっていました。はじめは普通に育っていたのですが、2歳半のときに大阪へ越してくることになって、面倒をみる人が祖母から私に変わったことや、環境が大きく変わったこともあったのだと思いますが、徐々に変化が出てきました。小さい子の割りに車の名前をよく覚えたり、アルファベットを全部覚え、やはり親ばかりですから、そんなに不安には思いませんでした。ただ、せっかく社宅で同じ歳の子供がたくさんいるのに、息子は子供とは遊ぼうとせず「お母さん。」と私について離れないですし、言葉も2語どまりだったのが気になり始めました。消防車のミニカーを片ときも放さないようになり、それまで建設的だった遊びがだんだん異常な感じになっていったのです。本が好きだったのに、本をバラバラとめくる遊びをしたり、レコードの上に物をのせて、クルクル回るのを喜んだり、おもちゃの電車を走らせて遊ぶときに、線路にぐっと顔を近づけてみたり。トランポリンやブランコも好きで、多動になっていました。この頃に興味が少し違う方向に來たように思います。

(松上) 興味が限定されてきたわけですね。

(中村) それでも3歳児健診では判らなかつたんです。やはりそういう行動が気になって、「一人遊び」「友達と遊ばない」「言葉が遅い」を相談項目に記入したのですが、多動で動き回る彼の様子をみ

て、「子供はこれくらい元気なものです」と見事に3歳児健診をパスしてしまつたんです。この3つがあると本来は「自閉の可能性があ



中村悦子さん

る」と見るべきだと後でわかつたのですが、その保健所にはそういう精神的判定のできる人が配置されていなかったのかと思います。結局、自閉症だと判つたのは幼稚園のときでした。入園テストで名前が言えてどうか合格し、通い始めた幼稚園だったのですが、子供たちの輪に、やはり入らないのです。朝は泣いて「お母さん。」と離れないですし。そして先生に「知恵遅れです。うちの園ではないところに行つた方がいいのでは？」と言われたのです。そのときはショックでした。

そして児童相談所に相談したあと、結局神戸大学のK先生に「自閉症です」と診断してもらいました。

知恵遅れとはまた違う「自閉症」とどう向き合っていくのか、児童相談所と相談しながらやってきました。

今ではないことですが、一番言われたのは、「親のしつけや態度」です。スキンシップの足りない家の子にそういう子が多い、とも言われ、反省してハイキングに連れて行ったり、水泳をさせたり、いろいろ取り組みました。当時、普通の子からいろいろ刺激を受けたほうがいい、という理論が主流で、茨木市立の幼稚園に一人加配の先生をつけてもらって、通いました。

(松上) 福田さんは年代的に、それより15年ほど後になりますが、いかがでしたか。

(福田) 言葉が遅く、3歳児健診を受けるより前に、少しおかしいのではと不安に思うことが度々でした。保健所に相談に行こうと考えたこともありましたが、それを言うと、家族や祖父母に「そんな心配はいらない」といつも拒否され、結局行かずに3歳児健診を迎えました。なんとか2歳までに、おしっこ、うんちは言えましたし、2つ上の兄も言葉が遅かつたこともあり、そのまま來たのです。うちもABCや数字は小さいうちから得意で、当時は家庭医学書にも「自閉症」という言葉がのつていて、やはり不安で3歳児健診のときに相談したのです。それで健診の最後になって、手の振り

方(手のひらの向き)で判定しましょう、ということになったのですが、そのときに限って、彼は普通の子のように手のひらを見せて振ってしまったのです。結局問題ないと判定されてしまいましたが、その時はほっとした、というのが正直な気持ちでした。

けれどやはりおかしい。兄の通っていた町の音楽教室につれていくと、おかしい態度が顕著になったのです。高いところにのぼったり、私にしがみついて離れなかったり。

私が付き添う、という条件付きで兄と同じ幼稚園に入れてもらったのですが、やはり高いところに上ったり、車の上でドンドンしたり、多動なのです。

幼稚園の先生に、家庭相談所に相談することをすすめられて行ったのですが、そこでも「自閉的傾向がある」というだけで、自閉症だとはっきりは言ってもらいませんでした。今思うと、当時はそういうことを言わないことをよしとする時代だったのですね。

その後、K幼稚園の田川先生(当法人の理事)に相談する機会があり、そこで初めて「自閉症です」と宣告いただいたと同時に「頑張りましょう」と言ってもらいました。年中のときでした。当時すでに高機能自閉症で療育を受けた結果、しっかりと成果の出ているお子さんの例があり、不安ではあったものの、「不安しかない」という状態ではありませんでした。

座る練習、絵カードで言葉を覚える練習などを月に2回ほど始めていきました。

(松上) 告知については、やはりいろいろ問題がありそうですね。それでは実際のところ、どの時期にどんな風に告知があればよかったのか、そしてその後のサポートはどうあってほしかったのか、という点について、聞かせていただけますか。

(中村) 3歳頃から言ってもらったらよかったなと思います。やはり早期発見、早期治療がいい結果につながっているようですから。私の入っていた茨木の障害児・者の会でも、あとから入ってくる方の障害が、私たちの子達よりもずっと軽くなっている気がします。情報も多く、療育もしっかりなされていて。そういう環境があればありがたかったです。私たちの時代には、そう診断されても、どうしたらいいかわからないし、伝えてももらえなかった。

週1回遊戯療法には通いましたが、どういうものに興味があるかもわからず、何も引き出せずだったように思います。

(福田) オアシス会員で、比較的早い時期に判定されたお子さんで、小さいうちから療育を受ける機会にも恵まれた方がいて、大きくなって就職さ



福田啓子さん(左は松上)

れました。早期に診断があると、親自身の自閉症理解もすすみ、子供の気持ちも理解しやすいと思います。「告知」はやはり親には衝撃ですが、早ければ早いほど、スムーズだと思います。私たちのときには、TEACCHの療育を実際に受けよう、という仲間も集まり始めていました。

(松上) 木下さんは、年代が違う分、大変さも違いますね。

(木下) 下の子を3歳で入院させたときには、看護婦さんやケースワーカーさんといろいろ話をした覚えはありますが、子供がそこでどんな治療や教育を受けていたのか、何をすすめていたのかは、よくわかりません。

(松上) 今なら、しっかりと治療計画があるでしょうね。

(木下) 当時は、ただ良くなってほしい、という気持ちで預けていました。自分で食べる、ということで手づかみで食べることが始まり、それが今でも残っていて、残念なのですが。胸の締め付けられる思いで預けた入院でしたが、目立った改善はなかったように思います。

(松上) 当時は、保育所や幼稚園、専門家でもそういうレベルでしたよね。年代によって、ずいぶん違う、ということもわかりました。告知やフォローは、その時期ややり方によって、その後のお子さんの成長に差が出ていそうですね。一見、親御さんには酷なようでも、はっきりとした告知がその後の適切なフォローにつながっていそうですね。次回は学齢期について、お伺いしたいと思います。今日はありがとうございました。

## 強い連帯・連携を



高槻市手をつなぐ親の会 副会長

北摂杉の子会 評議員 <sup>みず</sup>水 <sup>た</sup>田 <sup>たい</sup>泰 <sup>じ</sup>滋

知的障害者育成会高槻手をつなぐ親の会はその名称のとおり知的障害児者を持つ親の会です。1965年に大阪知的障害者育成会（当時は大阪精神薄弱者育成会）の高槻支部としての活動を開始し、昨年で満40年を迎えたところです。その活動は、同じ悩みや不安を持つ親の交流を原点としながら、教育・福祉と知的障害児者を取り巻く環境の整備・向上に取り組む運動体でもあります。

また、知的障害者の日中活動の場である作業所の設置運営から更には通所授産施設の建設にも取り組んできました。それらが結実したのが、現在の社会福祉法人友遊福祉会であり、知的障害者通所授産施設友遊の里です。

会員数は、約100名、学齢期・通所施設利用者・入所施設利用者・グループホーム利用者・一般就労と会員子弟の構成も多様であり、それぞれが持つニーズもまた多様です。

こうした多様なニーズに対応していくためには、会だけの取組みや車の両輪ともいふべき社会福祉法人友遊福祉会の力だけでも十分ではありません。私たちは、高槻市内の色々な社会福祉施設や事業者とも情報交換・意思疎通を図り、そして協力し、あるいは支援をいただきながら、知的障害を持つ子供たちが安心して暮らせる街づくりを目指していきたく考えています。

社会福祉法人北摂杉の子会の積極的な事業展開、例えば地域生活支援事業、児童療育（デイサービス）事業などなど、この高槻の街での知的障害児者への支援が強化されてきたこと

は、大いに評価し、感謝しているところです。とりわけ、短期入所事業において、私たちが切望してきた送迎サービスをこの高槻において嚆矢として実現していただいたことには、大変感謝しています。

今、障害者自立支援法のスタートで障害児者家庭には大きな経済的負担が押し掛かっています。それだけではなく、通所・入所を問わず施設運営も極めて厳しいものとなってきています。グループホーム・ケアホームもしかり、短期入所事業に至っては存続すら危惧されるような状況です。この法の下では場合によっては利用者と事業者の利害が相反するようなことも出てきますが、障害者の安心な暮らしという点では絶対に齟齬するものではないと確信しています。

今後とも知的障害児者の親という立場で、貴法人との連携を図っていければと思います。







## 評議員に加わって

島本町手をつなぐ親の会 会員

北摂杉の子会 評議員 <sup>ふく</sup> <sup>おか</sup> <sup>たか</sup> <sup>こ</sup>  
福岡貴子

「島本町手をつなぐ親の会」には、現在29世帯が所属しています。町内には3ヶ所の通所授産施設（町立やまぶき園と小規模作業所2ヶ所）があり、会員の子女の約3分の2がここに通所しています。

年間行事としては、総会・月例会・学習会・行政との懇談会・施設見学会の他、親子日帰りバスツアーを行っています。また、町規模で開催される年4回の行事への参加を通じて、地域とのつながりを保っているという現状です。

人口3万人未満（高槻市の10分の1）という小さな町において、小規模とはいえ、親の会として様々な状況にある各メンバーの将来への望みをまとめあげていくことは、容易なようでかなり難しいものです。

しかし当会は、町行政との交渉権を認められている唯一の知的障害者支援団体です。「町障害者施策推進協議会」へ委員を送り、刻々と厳しくなっていく福祉制度についても、定例化した福祉課との話し合いの場を大切にしていきたいと考えています。今年は今親の会も結成40周年を迎えます。障害をもつ人たちにとって希望のもてる将来に向かって記念すべき年にしたいと計画しているところです。

現在、島本町からは、当法人（北摂杉の子会）に7名がお世話になっております。大きく確実に組織化された当法人に障害のある子供を託せることは、親としてたいへん心強く思います。法人をここまで育てられた「北摂杉の子会」の皆さまのご努力に敬意を表しますとともに、今後の会の充実した展開に大きな期待

を寄せるものです。また、自閉症について身近に学ばせていただくよい機会を得ました。島本町在住の障害者の親として、甚だ微力ではありますが、何かお役に立てればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

「北摂杉の子会」の目標「地域の中での人間らしい豊かな暮らし」は、すべての障害をもつ人たちとその家族の願いです。

私の息子（29歳）が通所している「島本障害者共働作業所」も「地域の中であたりまえに生きる」を目標に、地域密着型の活動をしています。農家との契約による野菜の収穫と販売、ラーメン・ケーキ等食品の製造販売、弁当の注文仕出し等。活動の場は、生まれ育った地域の中にあります。「早手まわしの手助けはしない」「失敗を実感し自ら対処法を見つけさせる」、しかし「それを見守り、必ずフォローする」スタッフ。このような姿をありのままに地域へ表出していくうちに、支援者も地域を越えて増えてきました。一人ひとりの特性とニーズに即し、自己判断力を育て、自立に向けての自信を養っていく。小さな作業所ながら、通所者はたくましく育っています。

障害の特性に応じて、支援方法は違って当然です。法人の「ジョブサイトひむろ」、そして今度の「ジョブサイトよど」、いずれも人々が集まる地域の中にあります。ここに通う人たちも、より確かに少しずつその生活を豊かにされていくことを願い、支援していきたいと思っております。

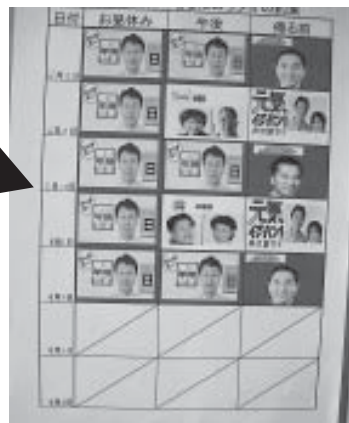
# ちょっと工夫、 ちょっとアイデア

～ジョブサイトよど より～

## 3F 一目でわかるラジオ番組表

3階の利用者さんは8名ですが、その中の2名の方が休憩時間にラジオを聞きたいという希望を出されました。しかも放送局は別々で…。

ラジオを2台用意するとか、休憩時間をずらすなども考えましたが、2人はお互いに友達でライバルで…ちょっと楽しんでいる風もあり、1日おきに放送局を変える



支援員 <sup>しの</sup>篠 <sup>なが</sup>永 <sup>やす</sup>保 <sup>こ</sup>子

という提案をしました。2人ともそれが良いということになり、表を作ってみました。

最初は文字だけだったのですが、2人とも番組名もはっきりおっしゃるので、ホームページからディスクジョッキーの顔をひっぱってきて貼り付け具体的に番組表にし、休憩室の入り口に貼っておきました。

すると、よりわかりやすくなったのか自分の聞きたい番組ではないときは、他の楽しみを（本やDVDなど）用意してこられたり、毎日確認しては、それぞれ楽しんでおられます。



## 4F 観葉植物の水やりのパターン化

JSよどの施設の特徴でもある各階にある南側のグリーンコーナーは、一面ガラス張りでサンサンと日差しが降り注ぐところにさま



ざまな観葉植物の大鉢が9鉢設置され、それらが柔らかな光に変え、ちょっとした癒し空間に



主任支援員 <sup>た</sup>田 <sup>ばた</sup>端 <sup>たまみ</sup>たまみ

なっています。その観葉植物の水やりは当初は専門業者が入っていましたが、今では利用者の仕事の一部となっています。視覚的に分かりやすい指示書を見ながら、週に2回自立して行っています。どの階も同じ設置に

なっているため、4階で出来たことは同じシステムをそのまま使って、違う階の水やりも



できるので、今では2階の会議室の方も行っていただいています。うまく水やりをしていただく為に工夫したことは、ジョウロをちょうど一鉢分のサイズのものにしたり、葉に向けてジャーとまくと水が散って床が水浸しになるので、一番最初に覚えて頂く

時に木の根っこに水をかけると指示書にもいれ込んだ事です。後は水をやり終えたら、鉢につ



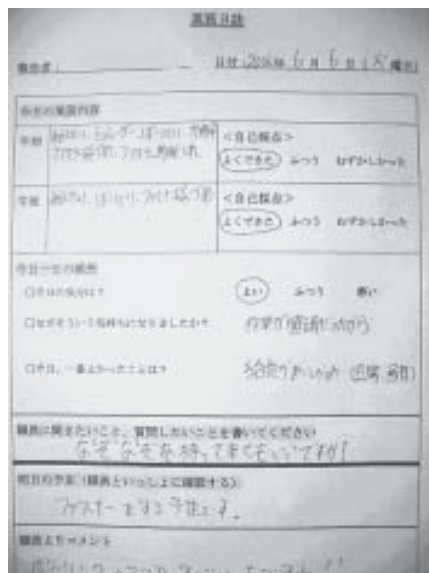
いている番号札を取って指示書のほうに張替える事で確実に水やりが行えています。施設の中でちょっとした工夫やアイデアがあれば、これまで業者が行っていたことも積極的にこちらで担っていけるとと思います。



## 5F 日誌利用で利用者の状況把握

5階では8名の利用者の方々に、主に印刷や資料シュレッダーや、クリアケースの組み立てなどの作業をしていただいています。いつも皆さんは一生懸命に作業されているのですが、よどでの生活について、どのように思われているのかということはなかなか分かりませんでした。

そこで作業後に、一日を振り返って日誌を書いていただくことにしました。まず、その日にした作業を書いて、それを「よくできた」「ふつう」「むずかしかった」で自己採点していただきます。



次にその日の気分を「よい」「ふつう」「悪い」から選んでいただき、「なぜそういう気持ちになったか」、「一番よかったこ



支援員 <sup>たか</sup> <sup>つ</sup> <sup>しゅう</sup> <sup>い</sup>  
高津 周 平

と」という項目に記入していただきます。最後に職員への質問があれば、記入していただくという構成です。

始めはなかなか書いていただけなかったり、毎日同じコメントが続いたりしましたが、続けていくうちに、「～の仕事がしたい」や「(よかったことの欄に)～の仕事がうまくできたから」など、バラエティに富んだコメントを書いていただけるようになりました。また、嫌なことがあっても伝えるのが難しい方が、日誌にその内容を書くことにより、スタッフがそれを知り、対応できたということもありました。



# ジョブサイトよど 開設記念講演会のご報告



ジョブサイトよど

施設長 <sup>さ さ き</sup> 佐々木 <sup>ひろ あき</sup> 寛 昭

平成18年5月30日(火)大阪天満橋のドーンセンターにてジョブサイトよど開設記念講演会を開催いたしました。当日は平日にも関わらず300名近くの方にご参加いただき、感謝いたします。遠方からご来場の方も多数おられました。

それぞれのお立場で障害者福祉の最前線で活躍されている講演者の先生方には、日々ご多忙の中、お話をいただき厚く御礼申し上げます。

また、関係機関、法人施設の家族会の皆様、オアシス会員の方々にもご協力をいただき、成功裡に終えることが出来ましたこと感謝いたします。

当日は講演に先立ち、当法人理事長・中村節史からご挨拶を兼ね、法人の設立経緯、理念、使命について説明をさせていただきました。

大阪市健康福祉局障害者施策部長 落合健二様よりは、ご祝辞をいただくとともに発達障害を取巻く状況のなかで、ジョブサイトよどに対する期待のお言葉をいただきました。

そして基調講演として、行政の立場から厚生労働省より大塚晃先生、政治の立場から衆議院議員の福島豊先生、記念講演として障害福祉の現場から長野県障害者福祉センターより藤村出先生に、以下の演題にてご講演をいただきました。

## 基調講演Ⅰ

厚生労働省 障害福祉専門官 大塚 晃 先生  
演題「障害者自立支援法と  
今後の発達障害者の支援施策」



大塚 晃 先生

## 基調講演Ⅱ

衆議院議員 福島 豊 先生  
演題「発達障害者支援法と今後の取り組み」



福島 豊 先生

## 記念講演

長野県障害者福祉センター 所長 藤村 出 先生  
演題「自閉症の理解と支援  
—自立と就労に向けて—」



藤村 出 先生

厚生労働省の大塚先生からは、行政レベルでの発達障害についての今後の方向性について、私論も交えお話をいただきました。衆議院議員の福島先生からは発達障害施策に対する熱い思いをこめたお話いただき、長野県障害者福祉センターの藤村先生からは、自閉症についての特性や就労を含めたバリアフリーについて非常に分かりやすくお話をいただきました。

今後、ジョブサイトよどの支援サービスを実践してゆく上でのよりどころとさせていただきたいと思えます。

今一度講師の先生方に深く御礼申し上げます。

また、この講演会にご参加の方より、多くの感想を寄せていただいております。以下にご紹介いたします。



萩の杜家族会の皆さまの物品販売

○開設記念講演会のご成功おめでとうございます。行政、立法、福祉の分野において、第一線でご活躍の先生方がご講演されるということで、大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシスもお手伝いにあがりました。当日は250名を超える方が会場まで足を運んでくださったとの事、大阪の皆様のジョブサイトよどへ寄せる期待がみてとれる結果だと思いました。この様な場に参加させていただき、他の家族会の皆様と交流が図れたことは当会として嬉しいことでした。

下は年少児から上は成人までという会員を有するオアシスでは、会員ニーズを把握するため平成16年度に保護者へアンケート調査を実施しました。その結果、療育サービスに関して満足度が非常に高く、また、それと同程度、その後のケアについても望む声があることがわかりました。大阪自閉症支援センターと児童デイサービスセンター a n は今年4月、ジョブサイトよどへ移転し、成人の施設と建物を同じくすることになりました。この移転により、学齢期以降の支援・サービスについて何か具体化できるのではないかという期待が高まったように思います。

ジョブサイトよどが自閉症者へ生涯に渡る支援を実施できる拠点施設として名を馳せ、自閉症児とその家族の心の支えとなりますように、オアシスもジョブサイトよど家族会と連携し、その発展に協力していく所存ですのでどうぞ宜しくお願いします。

(オアシス会長 南木 京子)

○最初にこの講演会が実現できたことに、参加して下さった方々、御講演下さった諸先生方、資料作成などの準備から当日の運営とご尽力頂いた関係各位に心から御礼申し上げます。この大阪に自閉症に特化した施設ができたこと、デイサービスセンター a n が併設されたこと、ともにうれしく思います。そしてこの講演会が開催され、それに参加できたことは私共にとつ

て、感慨深いものがあります。我が子のために歩んできた長い道のりによく光が見えたような気がします。障害を持つ子の親として障害者自立支援法を正しく理解し、それを有効に活用し、支援の必要なものがあれば、声を上げていく姿勢が大切だと思います。昨今、発達障害児者を取り巻く支援の輪が拡がりを見せてきていますが、まだ十分なものとはいえません。地域に生きるには生活自立訓練や就労支援などの自立に向けた支援がこれからの課題だと思います。「夢を現実に」また一歩前進したいものです。

(ジョブサイトよど家族会 永井昌明)

○「自閉症の理解と支援」についてお話された藤村出氏の講演内容が心に残りました。自閉症の人に対して「治せ」「克服しろ」「普通になれ」と言うのは無理なことだそうです。全盲の人に本を渡し「読みなさい」というのと同じことなのだと知り、なんとわかりやすい説明だろうと思いました。

表面にハンデがでている障害者の人たちは比較的理理解されやすいが、自閉症の人は頭の中に器質的、機能的障害(キズなど)があるため、それを目で見ることが出来ないのです。まわりの人達には非常に理解されにくいのが現状です。自閉症は治らないけれど、早期発見して、その子にあった独自のプログラムを作成して支援していくことが必要で、苦手なことは補い、普通の人歩み寄り、そんな社会になれば自閉症の人もその家族も、もっと住みやすい社会になると思いました。

藤村氏のお話こそ、ごく一般の人達や教師、施設の職員さんたちに、ぜひとも聴いてほしい内容でした。ありがとうございました。

(萩の杜家族会 深尾政子)



ジョブサイトよど家族会の皆さまの書籍販売

○5月30日ドーンセンターで催された「ジョブサイトよど」開設記念講演会に参加させていただきありが

とうございました。

厚生労働省障害福祉専門官の大塚氏からは障害者自立支援法に対してのご本人の将来の希望や、発達障害者の支援の制度に対しての熱い思いを直接伺うことができ、心強い思いでした。

衆議院議員の福島氏からは発達障害について取り組んでこられたことや、勉強会を開催して、各省に働きかけてこられたことを伺い頭の下がる思いがしました。今後の課題はまだたくさんありますが、これから頑張ってくださいますようお願いいたします。

最後の記念講演はご自身が本職は障害福祉コンサルタントと言われる藤村氏でした。自閉症という障害をまったく知らない人でもよく理解できるように、とてもわかりやすいお話で、支援するということがどういうことか、改めて考えることができました。ありがとうございました。

(萩の杜家族会 池田美保子)

○心の中にスーと入って来る、そんなわかりやすさと、それでいて考えさせられる講演でした。脳の器質的、機能的障害と考えられる自閉症は、パッと見にはわからない分、理解されないことが多く、親も子もつらさや生きにくさを抱えることとなります。

「目の見えない人に本を差し出して『ちゃんと読みなさい』とか、『努力すれば読めるはず』などと言うことはないでしょう。」

「天井の電球を替えるのに、3段のはしごを持ってきて届かなかったからといって、『あなたはダメな人だ』とは言わない、5段のはしごを持ってくればと思うでしょう。」

そうした例えによって、自閉症の特性を正しく理解して、適切な支援をすることの必要性をよく理解させ、納得させて下さったと思います。

「私たちも完全に自立していますか？石油は……、電気は……」と思ってもみなかったことに目からウロコという感じでした。



書籍販売の様子

ひとりひとりに合わせた教育や援助のプログラムが必要であること、自閉症の特性を文化として認めること(!)、出来ることに着目し出来ないことはあってもいい、出来ないことを手伝ってもらおうetc……。

自閉症者への支援の考え方は、障害を持つすべての人に、また高齢者の援助にも当てはまる基本的なものではないかと思いました。

TEACCHプログラムについてはすでに、いまお世話になっている生活施設「萩の杜」でスタッフの方の熱意と行動力によって成果を上げています。

自閉症の特性を「文化」と認めることの出来る社会ではありませんが、せめて発達障害を持つ人の家族たちから始め、障害のちがいがから来る“出来なさ”“わかりにくさ”を受け入れていけたらと思いました。気持ち楽になると対処しやすくなります。

「ジョブサイトよど」がお母さんたちのちょっとと心のゆとりをもてる、勇気をもって生きようと思える、そんな場になるでしょうと思いつつ、帰途につきました。

(萩の杜家族会 田口恵美子)



物品販売の様子

○平成18年4月に自閉症に特化した施設が開設しました。これは、大阪自閉症支援センターのTEACCH療育を受けました私たちの夢でありました。開設できましたことに深く感謝しております。また、ジョブサイトよど家族会も発足し、この開設記念講演会をお手伝いすることが出来て、嬉しく思いました。

開設記念講演では、大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス会員でいらっしゃる衆議院議員福島豊氏をはじめ、厚生労働省障害福祉専門官大塚晃氏、長野県障害者福祉センター長藤村出氏、そうそうたるメンバーの講演を一度に聞くことができましたこと、法人の皆様にも厚く御礼申し上げます。

オアシス会員福島氏にお会いした折、発達障害にご尽力いただいていることへのお礼をすることができま



会場の様子

して、有意義な時間を過ごすことができました。

福島氏から、温かい励ましの言葉と、企業向けの「発達障害のある人の雇用管理マニュアル」を直接頂くことができ、感無量の思いがいたしました。

改めて、自閉症児者の住みよい社会参加に取り組んでいきたいと思いました。

国や行政からのお話を聞いて、私たちの施設である、大阪自閉症支援センター、児童デイサービス an をとても重要に感じました。

早期に療育することの大切さ、発達障害の専門家の研修、人材の確保。これらのことを再確認できました。

大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシスの会員である私は、これからも支援を続けたいと思いました。

藤村氏の講演は、「自閉症のすすめ」の本を以前から購読していることもあり、「どんなかたかなあ。」と、楽しみにしておりました。期待通り、わかりやすくユーモアもあって、時間の過ぎるのをわすれました。一般の方も自閉症のこと、理解してくださったようです。

私の地域の民生委員長、女性会会長、小学校同窓会長、小学校生涯学習推進員の皆様8名が参加くださり、自閉症について、「やっと理解できた。」「これから社会にできるよう支援したい。」とお声かけしてくださいまして、嬉しく思いました。

このような講演会を開催することで、自閉症の啓発にもなり、地域のみなさまのご理解とご支援で、こどもたちも地域で働くことをめざせると思いました。

今後とも、私たち親は、こどもたちの「地域に生きる」就労支援の現実の為に支援を続けたいと切に願っております。法人のみなさま、ご指導ご支援よろしく願いいたします。最後になりましたが、萩の杜家族会の皆様、ジョブサイトひむろ家族会の皆様、オアシス役員の皆様、交流を深めさせていただきましてありがとうございました。

(ジョブサイトよど家族会 会長 福田啓子)

○今回の講演会では、普段あまりお話を聴ける機会のない先生方の講演があるということ、障害福祉専門官の大塚氏、私たちオアシスの会員でいらっしゃるにもかかわらず、現在までお話を伺う機会がありませんでした衆議院議員・福島豊先生、そして「あの」藤村出先生の講演を聴くことができるということで、以前から楽しみにしていました。

先生方のお話はどれも皆興味深く、観衆も多数集まり、なごやかで盛大な講演会でした。ただ、講演時間が午後一杯だったということもあり、学齢期のお子さんを持つ親御さんは途中退席される方がかなりおられ、藤村先生の講演の時には空席が目立っていたのは少し残念に思いました。藤村先生の自閉症児者を含めた広い視野からの障害者・バリアフリー観は、小さいお子さんがいる方にこそ聴いてほしいお話だと思いました。

企画、実行に携わられた関係者の皆様、ありがとうございました。

(オアシス会員 藪内由美)



よど家族会の皆様へ受付をお手伝いいただきました

# 表彰式 (17年度対象)

当法人では職員の意識向上をねらい、新たな人事制度の一環として人事考課制度および表彰制度を導入いたしました。

4月に行われました初回となる表彰式の様子をお伝えいたします。

4月8日(土) ジョブサイトよどにおいて、平成17年度の業務貢献表彰を行いました。制度を創設して最初の年度にも関わらず、応募内容はどれも法人の業務向上にあたいするものであり、今後の成果を期待したい内容でありました。又、3名の資格取得表彰を行いました。本年度も業務向上への取組又自己研鑽に期待いたします。

## ・業務貢献表彰

†木戸貴之・下 裕幸 「PWS支援者ネットワーク設立とその後の成果について」

†高橋亜希子 「自閉症eネットの事業運営とその成果」

以上2件各5万円

†田端たまみ、及びジョブサイトひむろスタッフ一同

「ジョブサイトひむろ日中活動におけるエアロビックスの取組」

以上1件3万円



木戸 貴之



下 裕幸



高橋亜希子



田端たまみ

## ・資格取得表彰 (3万円)

†平野貴久 介護福祉士

†林 貴司 社会福祉士

†佐々木祐介 精神保健福祉士



平野 貴久



林 貴司



佐々木祐介



## 車両助成をいただきました

平成18年度共同募金および平成18年度年賀寄附金から助成をいただき車両2台購入いたしましたことをご報告いたします。

内容については下記の通りです。

	共同募金	年賀寄附金
配分金	1,300,000円	1,696,610円
対象施設	萩の杜・ショートステイセンターぶれす	ジョブサイト よど
指定用途	送迎用車両	授産作業用車両

赤い羽根共同募金の助成で、ショートステイセンターぶれすの送迎用の車両を購入いたしました。短期入所の利用者の方の増加で送迎用の車両が不足していたので非常にたすかります。共同募金会様に御礼申し上げます。関係者の皆様、街角で「赤い羽根の共同募金」を見かけましたらご協力をお願いいたします。

平成18年度年賀寄附金配分は、前年が899件の申請から1102件の申請と大幅に増加し334件が採用となりました。私共法人では、年賀寄附金の助成については、本年4月に開所したジョブサイトよどの授産活動、就労支援活動のために車両を申請し、上記の金額の助成が決定いたしました。法人の活動にご理解をいただきました日本郵政公社様に御礼申し上げます。インターネットの普及で電子年賀状が増え、年賀葉書を利用する方が減少しているとの事です。そこでお正月には、「年賀葉書」を、夏には「かもメール」を関係者の皆様ご利用下さるよう宜しくお願いいたします。



赤い羽根共同募金助成車両



年賀寄附金助成車両

# 掲示板コーナー

(平成18年3月から平成18年5月まで)

## 法人本部 総務部 掲示板

- |       |   |   |
|-------|---|---|
| 3月23日 | 考課者研修<br>講師 株式会社日本経営戦略人事<br>コンサルティグチームリーダー 横井将之様  | 説明 理事長 中村 節史  |
| 3月25日 | 非常勤職員研修 会場 ジョブサイトひむろ<br>1) 親達のつくった社会福祉法人<br>講師 理事長 中村 節史<br>2) 社会福祉法人の存在意義と<br>法人に求められるもの<br>講師 常務理事 松上 利男<br>3) 自閉症の特性とその支援について<br>講師 ジョブサイトひむろ支援員<br>魚谷 浩一郎<br>4) てんかん発作の理解と対応について<br>講師 萩の杜 支援員 原田智弘<br>5) ダウン症について<br>講師 萩の杜 支援員 黒木由希子<br>6) 不適切な行動に対する支援について<br>講師 ジョブサイトひむろ支援員<br>中垣内貴恵 | 2) 平成18年度各施設・部年度方針発表<br>施設長、部長<br>3) 障害程度区分認定調査について<br>ショートステイセンターぶれす<br>主任 谷田加奈子<br>4) 障害者自立支援法について<br>常務理事 松上 利男<br>5) リーダーの役割と求められる行動<br>講師 株式会社日本経営戦略人事<br>コンサルティグ チームリーダー<br>横井将之様<br>業務表彰式<br>資格取得表彰 (3名)<br>業務貢献表彰 (3件)<br>(詳細は17年度業務表彰式のページに載せて<br>います)   |
| 3月26日 | 第37回理事会・第17回評議員会<br>決議事項<br>第1号議案 地域移行支援センター事業受託<br>の件<br>第2号議案「理事会運営規則」の設定及び<br>「専行規程」改正の件<br>第3号議案 諸規定改正の件<br>第4号議案 平成18年度事業計画(案)の件<br>第5号議案 平成18年度予算(案)の件<br>第6号議案「ジョブサイトよど」及び<br>「ジョブサイトひむろ」施設長任命の件<br>第7号議案 大阪府の社会福祉法人の<br>指導監査の件<br>決議事項につきましては、満場一致で承認に<br>なりました。                      | 4月11日 運営会議<br>4月18日 新事業移行検討委員会 常務理事、施設長、<br>部長、課長、主任<br>5月8日 経営会議<br>5月23日 運営会議<br>5月26日 監事監査 川浪監事・吉田監事<br>5月28日 第38回理事会・第18回評議員会<br>決議事項<br>第1号議案 平成17年度法人・施設事業報<br>告の件<br>第2号議案 平成17年度法人・施設決算の件<br>決議事項につきましては、満場一致で承認に<br>なりました。<br>報告事項<br>1) ジョブサイトよどの開所後の運営状況に<br>ついて<br>2) 平成17年度表彰の件<br>3) 将来構想検討委員会の件<br>4) 車両補助の件 |
| 4月3日  | 経営会議  |   |
| 4月8日  | 職員研修会 ジョブサイト よど<br>1) 平成18年度北摂杉の子会年度方針の   | (安原 記)  |

## 萩の杜 掲示板

- |      |                                   |       |                   |
|------|-----------------------------------|-------|-------------------|
| 3月1日 | 精神科相談                             | 28日   | 余暇委員会             |
| 5日   | 音楽療法                              | 5月10日 | 精神科相談             |
| 8日   | 部長・主任会議                           | 11日   | 地域移行支援センター会議      |
| 12日  | PWS (プラダー・ウィリー症候群)<br>支援者ネットワーク会議 | 12日   | 生活支援係会議           |
| 15日  | 精神科相談                             | 17日   | 旅行委員会             |
| 16日  | 職員健康診断                            | 22日   | 部長・主任会議           |
| 18日  | 自閉症支援者ネットワーク会議                    | 24日   | 精神科相談             |
| 20日  | グループホーム・自活訓練スタッフミーティング            | 26日   | 余暇委員会             |
| 30日  | グループホーム・自活訓練スタッフミーティング            | 30日   | 歯科検診・地域移行支援センター会議 |
| 4月5日 | 精神科相談                             |       |                   |
| 19日  | 精神科相談                             |       |                   |

## ジョブサイトひむろ掲示板

- |       |  |       |   |
|-------|--|-------|---|
| 3月6日  | エアロビクス Aグループが参加しました。<br>(ゆうあいセンター)   | 4月8日  | 法人研修会にてジョブサイトひむろエアロビクスの取り組みが法人表彰を受けました。 |
| 3月13日 | エアロビクス Bグループが参加しました。<br>(ゆうあいセンター)   | 4月10日 | 東修一さんが退所され、萩の杜に入所されました。                 |
| 4月1日  | 新利用者4名がジョブサイトひむろに入所されました。<br>副島菜央さん(洗濯グループ)<br>福本祐里恵さん(陶芸グループ)<br>三宅裕子さん(折りコングループ)<br>山田千明さん(そうぞう4グループ)<br>以上4名をお迎えしました。 | 4月23日 | 田井中さんが退所され、萩の杜に入所されました。                 |
|       |  | 5月9日  | エアロビクス Aグループが参加しました。<br>(ゆうあいセンター)      |
|       |  | 5月23日 | エアロビクス Bグループが参加しました。<br>(ゆうあいセンター)      |
- (平野 記)

## 自閉症支援部掲示板

- |                 |                                    |                               |   |
|-----------------|------------------------------------|-------------------------------|---|
| ○児童デイサービスセンターan | 6月26日                              | 月1回の保護者研修「実践講座」開催<br>谷岡、前田、中野 |   |
| 4月1日            | 平成18年度療育児契約の締結                     |                               |   |
| 4月17日～          | 療育の開始                              |                               |   |
| 5・6月            | 月1回 保護者研修の開催(入門・実践・応用) 谷岡、松岡、大澤、田中 | ○アクトおおさか                      |   |
| 5月～             | 関西学院大学社会学部 実習生受け入れ 1名              | 3月1日                          | 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会事務局担当 古東、新澤                               |
| ○大阪自閉症支援センター    |                                    | 3月18日                         | eネットレポート2006 事務局担当 高橋   |
| 4月27日           | 豊能町小学校 巡回指導 谷岡                     | 4月1日                          | 発達障害者支援センター近畿ブロック連絡会(ジョブサイトよどにて)                              |
| 5・6月            | 月1回 保護者研修開催(基礎・実践1・実践2) 谷岡、宮本      | 4月17日                         | 大阪府健康福祉部障害保健福祉室地域生活支援課へ訪問 新澤                                  |
| 5月23日           | 豊能町小学校 巡回指導 谷岡                     | 4月18日                         | 青年・成人期自閉症理解のための連続講座第1回 講師 新澤                                  |
| 5月24日           | 摂津市小学校 巡回指導 谷岡                     | 4月19日                         | 大阪府健康福祉部障害保健福祉室地域生活支援課より参事・総括主査 視察                            |
| 6月10日           | 「実技セミナー土曜コース」<br>第一回 講師 谷岡(補助 本谷)  | 4月25日                         | 青年・成人期自閉症理解のための連続講座第2回 講師 中山                                  |
| 6月12日           | 茨木市教育研究所 講師 谷岡                     | 5月9日                          | 青年・成人期自閉症理解のための連続講座第3回 講師 高橋                                  |
| 6月15日           | 摂津市こども育成課 講師 谷岡                    | 5月13日                         | 自閉症eネット公開講座 事務局担当 高橋  |
| 6月16日           | 大阪市家庭相談員 講師 谷岡                     | 5月16日                         | 青年・成人期自閉症理解のための連続講座第4回 講師 新澤                                  |
| 6月21日           | 豊能町小学校 巡回指導 谷岡                     | 5月17日                         | 大阪府商工労働部より労働政策監、雇用対策課課長 視察                                    |
| 6月22日           | 摂津市小学校 巡回指導 谷岡                     | 5月23日                         | 大阪府発達障害団体ネットワーク平成18年度総会・第1回ネットワーク会<br>アクトおおさか事業説明 新澤、事務局担当 古東 |
| 6月23日           | 大阪府教育センター 講師 新澤                    |                               | (谷岡 記)  |
| 6月24日           | 「実技セミナー土曜コース」<br>第2回 講師 谷岡(補助 本谷)  |                               |   |
| 6月24日           | 「療育土曜日ミニコース」<br>一回目 担当 谷岡          |                               |   |
| ○自閉症療育センターwill  |                                    |                               |   |
| 4月24日           | 平成18年度新規療育児の説明会開催                  |                               |   |
| 6月12日～          | 月1回の保護者研修 開催 講師 谷岡                 |                               |   |
| 6月12日～          | 療育開始                               |                               |   |

## ジョブサイトよど掲示板

今年4月から自閉症の方たちの就労支援を中心として開所しました。現在20数名の利用者が利用されています。どうぞよろしくお願いたします。

- |      |              |      |                  |
|------|--------------|------|------------------|
| 4月3日 | 開所式          | 5月1日 | 支援員会議            |
| 13日  | 利用説明会        | 15日  | 支援員会議            |
| 25日  | 就労支援プロジェクト会議 | 24日  | 避難訓練             |
|      |              | 25日  | 施設見学会            |
|      |              | 30日  | 開設記念講演会(ドーンセンター) |
- (佐々木 記)

## 萩の杜家族会掲示板

- 3月9日、27日  
サークル萩：有志のお母さんたちの集いであり、バザー、物品販売に出品する手作りの製作をすると共に情報交換の場でもあり、原則毎月2回開催している。
- 3月10日 ホットトーク：松上施設長と有志のお母さん方による懇談会。
- 3月12日 新旧役員会開催。家族会細則の変更を討議・決定他。
- 3月17日 定例会：原則毎月1回開催。会員25名と河坂副施設長出席。  
毎日テレビに杉の子会関連の放映があることの紹介、萩の杜施設改修のための寄付金提供等の決定、その他。
- 3月19日 萩谷総合運動公園クロスカントリー大会でバザーを実施。
- 3月26日 高槻カトリック教会にてお花の販売。
- 4月7日 ホットトーク
- 4月10日、27日  
サークル萩
- 4月23日 午前中高槻カトリック教会にてお花の販売。
- 4月23日 総会：17年度活動報告、18年度事業計画、18年度役員選出等。
- 5月5日 法人からは「18年度活動重点目標とその取り組み」について中村理事長、松上施設長、河坂副施設長より報告。「障害程度区分認定」について谷田援助員より説明。  
ふれあいバザー：春・秋の祝日に萩の杜施設前でのバザー。  
物品販売、ぜんざい・フランクソーセージ・ジュース等の販売実施。
- 5月8日、25日  
サークル萩
- 5月14日 ホットトーク
- 5月21日 高槻カトリック教会にてお花の販売。
- 5月21日 役員会：原則隔月1回開催。  
10名の役員と松上施設長、河坂副施設長出席。6月恒例の施設周辺草刈・清掃の計画、ホットトークの持ち方等。障害程度区分認定について松上施設長より説明。
- 5月28日 定例会：障害程度区分認定に関する署名とカンパについて。ジョブサイトよど開設記念講演会出席要請。草刈り参加要請。
- 5月30日 ジョブサイトよど開設記念講演会出席。併せて同会場にて物品販売実施。

(山尾 記)

## ジョブサイトひむろ家族会掲示板

- 3月6日 定例会  
J S ひむろの次年度体制について松上常務理事、平野施設長から説明を受けた。  
職員、パートの配置について・新規利用者のグループ配置について・土、祝日開所について・自立支援法移行による利用料と法人減免について。
- 3月27日 役員会  
総会に向けての議案書原案の作成・自立支援法に関する負担内容について及び法人減免について・職員の配置変更など
- 4月5日 役員会  
総会用議案書内容の確認及び製本化・利用者2名の移動の確認（ひむろ→萩の杜）
- 4月25日 平成18年度総会  
事業活動計画・予算・新役員体制など承認される。
- 5月16日 アンケートの実施  
①休日開所に関する内容  
②利用者の旅行に関する内容 以上2項目について施設の考え方に対する保護者の意向を取りまとめるためアンケートを行った。
- 5月26日 役員会  
アンケート集約結果と今後の対応について・支援費など利用料の自動引き落としの具体的方法について。
- 5月30日 J S よど開設記念講演会  
講演会の開催時間が利用者の帰宅時間とバッティングし3名の参加に留まった。

(沖本 記)

## 北摂杉の子会後援会掲示板

### <行事>

- ・第6回（2006年度）定例役員会を開催

（議事録抜粋）

日 時）2006年4月29日（土） 15:00～16:00

場 所）ジョブサイトひむろ

出席者）後援会：役員全員（9名：2名は委任状）が出席

相談役：全員（6名）が出席

監査役：出席（委任状）

### 1. 2005年度の活動

#### 1) 会員数

個人会員：726名、団体会員：22団体、合計：748名/団体

#### 2) 収入

後援会費：131万円、寄付：87万円、

セキスイハイム成約紹介料：50万円、合計：268万円

#### 3) 経緯

- ・法人への寄付

2005年4月に250万円を寄付

- ・法人・施設と取引のある業者に対して、団体会員への入会をお願い

- ・柏木哲夫先生（金城学院大学学長）の講演会への協力

- ・セキスイハイム住宅紹介制度

一件成約、60万円入金済み（10万円を紹介者に振込み）

### 2. 2005年度の収支と会計監査報告

#### 1) 収入

前期繰越金：2,638,724円、寄付金：877,500円、

後援会費：1,310,000円、受取利息：73円、

セキスイハイム成約紹介料：500,000円、

収入合計：5,326,297円（今年度の収入：2,687,573円）

#### 2) 支出

事務費：1,100円、通信費：12,630円、

雑費：10,440円、法人への寄付：2,500,000円、

支出合計：2,524,170円

3) 次期繰越金

2,802,127円 (2005年3月31日現在)

上記について有川監査役の会計監査を受け、適正に運用されていることが確認されたことが、会計から報告された。

3. 2006年度の活動計画

1) 法人への寄付

寄付の用途について安原総務部長から説明があり、異議なく了承された

(250万円：ジョブサイトよどの運転資金)

2) 援会員の整理と資金計画

・退会希望者などがあったため、個人及び団体会員の整理を行った

今年度の会員数は、個人会員：489、団体会員：13、合計：502名/団体

・資金計画→後援会費、寄付、その他で250万円の収入を目標にする

3) 住宅紹介制度 (セキスイハイム)

今年度も継続する

4. その他

・会計監査役の交代の件→有川洋太郎氏をご本人都合により退任し、後任には柏原紀男氏が選任された

<近況報告>

・5月16日 法人への寄付を実施

・5月24日 後援会員数

個人会員：522名 (新規加入：33名)

団体会員：15団体 (新規加入：2団体)

合計：537名/団体

<会員様の声>

後援会費納入、寄付の際に法人へ寄せられた会員様のコメントを、ご紹介します。

①送っていただいています通信を、いつも活用させていただいています。ありがとうございます。杉の子会が近くにいることが心強いです。わずかで申し訳ありませんが、カンパとさせていただきます。(大阪府三島郡島本町、MN様)

② 2006年分の会費を送金いたします。皆様、どうぞ健康に恵まれ、ますますのご発展を、と願っております。(尼崎市、TT様)

(棚山 記)

## ジョブサイトよど家族会掲示板

4月3日 家族会設立準備委員会発起。

5月1日 家族会設立準備委員会。

5月8日 家族会設立総会開催。

利用者と家族会で、100円喫茶を実施。

5月28日 北摂杉の子会理事、評議委員会 河端、福田参加。

5月30日 ジョブサイトよど設立記念講演会。

受付を家族会役員お手伝い。

書籍委託販売をした。

(福田 記)

## 大阪自閉症支援センターを発展させる会 オアシス掲示板

3月中 ホームページ移転準備、メール等の変更手続き

3月2日 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会  
福田、山本忠が出席

3月5日 学齢委員会 就労体験  
会員児が「いるか通信」発送作業を手伝う  
11名参加

3月6日 広報委員会「いるか通信」発行

3月10日 新旧役員会

3月11日 おやじの会「これからのおやじの会のテーマについて」

3月12日 学齢委員会 就労体験  
会員児が「いるか通信」発送作業を手伝う  
7名参加

3月16日 大阪市発達障害者支援センター訪問  
福田、中島学齢委員がセンター長と懇談

3月21日 大阪市発達障害者支援センター開設記念講演会  
福田、南木が聴講

3月26日 北摂杉の子会 理事評議委員会出席  
福田、山本忠が出席

4月15日 新旧役員会  
中村理事長同席

4月20日 総会資料発送

4月22日 おやじの会 4月例会「自閉症のための治療薬について」

4月26日 大阪市社会福祉協議会訪問

南木、芝が担当者と懇談

大阪市ボランティア情報ネットワークへの団体登録を申請

4月28日 広報委員会 編集会議

4月28日 会員へ各種案内を発送

5月14日 通常総会

5月20日 おやじの会 5月例会「自立を考える・これからの施設の在り方について」

5月23日 大阪府発達障害団体ネットワーク

総会&第1回ネットワーク会

会場設営、会食手配を担当

5月30日 ジョブサイトよど開設記念講演会

接待係として役員3名が手伝う

(南木 記)

### ※「おわびと訂正」

前号表紙写真のお名前が「坂口至大さん」となっておりますが、正しくは「阪口至大さん」です。

お詫び申し上げますと同時に訂正いたします。

□法人へのご寄付に感謝します (2006年4月1日～2006年6月20日)

山田千明 福本宏 三宅達也 副島菜央 池田美保子 上野嶺子 有限会社津之江電気工事代表取締役 川合定雄 森田弘  
西井正美 永井昌明 木下豊仁 福智康彦 内田和之 山田博道 中本昭 小越洋一郎 山本明彦 谷口智恵子 富士谷啓  
並河博 福留泰俊 社会福祉法人北摂杉の子会後援会 出口幸平 宮本東雨 福田啓子 田井中伊修 飯塚信一  
ジョブサイトよど家族会 田泌尿器科クリニック理事長 田珠相

□後援会ご入会と会費納入に感謝します (2006年3月23日～2006年5月24日)

長嶺真佐子 新川 彰 森上一二 川田紀久夫 堀川浩二 岩村光男 磯部照男 小林善浩 池下貞子 今村圭子 中嶋浩子  
沢田幸子 福原温子 福原龍彦 今村一二三 中野芳栄 入江誠司 (株)サカタロジックス 水田泰滋 早原君子 柏原ひさる  
辻村昌子 加藤孝子 酒井喜代美 和泉和子 岩本 守 柏原美智栄 下川都志子 大平久子 出口洋子 坂中由香 篤田晴子  
荒川睦 中村四葉 志賀亞之 中村潤 門口映子 安徳和士 奥昌子 馬場初子 宇澤聡子 土田美智子 深尾彰彦  
藤井弘子 高木千栄子 村山宣明 本田成美 本間和子 牧野金之助 松岡由美子 惣田一枝 藤下生美子 松岡茂雄  
松岡洋市 藤田晴美 鹿子木勉 嶋田輝美 福田節子 藤澤一雄 藤澤千恵子 山口隆 東富美代 沖田正治 新谷敦  
瀬戸純代 山田千明 池田好子 福留泰俊 畑中孝雄 鈴木周平 中川まどか 永井昌明 竹内知子 中西 弘 谷口智恵子  
西井真弓 平林弘子 平林征男 中村忠雄 北畑千恵子 北畑弘一 関喜子 関 正弘 瀧川盛夫 小林伸次  
中央フードサービス株式会社 小林真理子 鶴野隆浩 瀧川大悟 有田和弘 榎本貴夫 久保茂 川中靖子 高田真行  
小林泰弘 上原より子 塩田好子 山下学 塩田裕正 小柴美香 鈴木都美 八里さだ 濱田誠治  
田村衣代 (法橋周二といとこ会) 富田カズミ 林堅一 松本範雄 片岡厚子 山田信子 深谷美代子 小山英夫

□後援会へのご寄付に感謝します (2006年3月23日～2006年5月24日)

新川淳 カトリック高槻教会 橋川靖子 中川まどか 渡辺信枝 梶井英二 山口隆 岡田喜篤 小柴美香 共和運輸 (株)  
小山英夫

□家族会へのご寄付に感謝します (2006年4月1日～2006年6月30日)

植松芳哲 本田英世 ほかほか弁当園田店 松岡 田口容子

□物品のご提供に感謝します (2006年3月～2006年6月)

不二園芸 下川隆子 前田富士江 鶴谷久子 福原きよ子 細田信一 成田敬子 荒木良輔 藤本寿子 岩弘子 古賀  
月岡 沖 島脇 中川 福田節子 嶋田輝美 伊藤公子 田中節子 滝本規明 大黒千恵子 渡辺公子 三瀬千鶴子 甲木翠  
浜田由美子 三谷恭子 手嶋節子 小林夏子 松尾裕美 中谷洋子 香川豊子 伊藤美根子 田中由紀子  
黒瀬美和子 岡本 中塚多美子 松下 池上勝子 西島 西岡 東喜代美

寄付と後援会入会のお願い

記

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支  
援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げ  
ます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせて  
いただきます。

お振込みは右記口座まで、もしくは、同封の振込用紙をご利  
用下さい。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

- ◇◇◇ 1. 寄付金 円
- ◇◇◇ 2. 個人会員 年間一口 2,000円
- ◇◇◇ 3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座 北摂杉の子会

00920-8-90859

- 社会福祉法人 北摂杉の子会 法人本部  
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1 (萩の杜内)  
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130  
[E-Mail] haginomori@nifty.com  
[URL] http://homepage3.nifty.com/suginokokai/
- 知的障害者生活施設 萩の杜  
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1  
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130  
[E-Mail] haginomori@nifty.com
- ショートステイセンター ふれす  
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1  
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130  
[E-Mail] haginomori@nifty.com
- グループホーム とんだ  
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14
- グループホーム みやた  
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1
- 高槻市障害者地域移行支援センター だ・かーぼ  
〒569-1141 高槻市氷室町3-20-10  
TEL (072) 690-5221 FAX (072) 690-5227
- 知的障害者通所授産施設 ジョブサイトひむろ  
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27  
TEL & FAX (072) 697-2234  
[E-Mail] andante-himuro@nifty.com

- 生活支援センター あんだんて  
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27  
TEL (072) 697-2233 FAX (072) 697-2234  
[E-Mail] andante-himuro@nifty.com
- 大阪府発達障害者支援センター アクトおおさか  
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2 高谷ビル2 F  
TEL (072) 662-0055 FAX (072) 662-0056  
[E-Mail] act-osaka@nifty.com  
[URL] http://homepage3.nifty.com/actosaka/
- 自閉症療育センター will  
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2 高谷ビル2 F  
TEL (072) 662-0100 FAX (072) 662-0056  
[E-Mail] will50@nifty.com
- 知的障害者通所授産施設 ジョブサイトよど  
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号  
TEL (06) 6838-7007 FAX (06) 6838-7015  
[E-Mail] js-yodo@nifty.com
- 大阪自閉症支援センター  
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号  
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015  
[E-Mail] oasc@oasc.jp [URL] http://oasc.jp
- 児童デイサービスセンター an  
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号  
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015  
[E-Mail] oasc@oasc.jp [URL] http://oasc.jp

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人北摂杉の子会 理事長 中村節史  
発行日 2006年7月10日

発行所 北摂杉の子会 住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1

